

第2回講演会

神奈川県内における埴輪の生産と供給

—系譜と年代から考える体制の実相と変革の背景—

令和8年1月11日（日）14:00～16:00

於 海老名市役所 401 会議室

芝山町立芝山古墳・はにわ博物館 主任学芸員

早稲田大学東アジア都城・シルクロード考古学研究所 招聘研究員

伝田 郁夫

I. 神奈川県と古代の領域

- ① 概ね東京湾（東側）と相模湾（南側）へ注ぐ河川の分水界（横浜市付近）を国境として、武蔵国（北東部）と相模国（中西部）に分かれる
- ② 全体的に古墳の築造数は、関東地方の他地域と比較して少ない傾向にあるが、東京湾に注ぐ多摩川流域及び鶴見川流域（南武蔵）、東京湾と相模湾を隔てる三浦半島及び県内中央部を貫き相模湾から太平洋に注ぐ相模川中・下流域流域（相模国）に有力古墳が展開する

II. 南関東（神奈川県・東京都）における造墓活動の特質

- ① 古墳時代出現期～前期は、上記の各地域に前方後方墳や大型の前方後円墳が築造される
 - ◎多摩川下流域左岸（東京都大田区）＝宝来山（蓬莱塚）古墳（墳丘長 97m）・亀甲山古墳（墳丘長 107.25m）
 - ◎多摩川下流域右岸（川崎市・横浜市）＝白山古墳（墳丘長 87m）・観音松古墳（墳丘長 100m?）
 - ◎三浦半島（三浦郡葉山町・逗子市）＝長柄桜山 1 号墳（墳丘長 91.3m）・2 号墳（墳丘長約 88m）
 - ◎相模川流域（海老名市）＝秋葉山古墳群など
- ② 古墳後期中期になると、前期には卓越した大型前方後円墳が築造され河川流域に展開した首長墓系列は終息し、造墓活動は低調となる
 - ◎造墓活動が上流へ移動する多摩川左岸でも、野毛大塚古墳（東京都世田谷区）のように前方部が短小な帆立貝式古墳の墳丘形式が採用される。この時期の野毛古墳群は、帆立貝式古墳とその下位に位置付けられる造出付円墳や小円墳で構成されるようになり、北武蔵の雷電山古墳（埼玉県東松山市）と共に、南北武蔵から大型前方後円墳が姿を消す（畿内もしくは毛野からの規制か?）
- ③ 古墳時代後期になると、再び前方後円墳が築造されるようになるが、墳丘規模の点において、前・中期古墳を凌駕することはない

Ⅲ. 神奈川県における古墳時代前期～中期前半の埴輪の様相

- ① 前期に遡及する埴輪は少なく、分布も散漫
 - ◎長柄桜山1号墳・2号墳＝円筒埴輪・壺形埴輪
 - ◎伊勢原市小金塚古墳＝朝顔形埴輪
- ② 中期前半の埴輪は、多摩川左岸の野毛大塚古墳を嚆矢とする系譜の埴輪が継続的に製作されるが、神奈川県内においては、同時期に遡及する埴輪の事例はほとんど確認できない
 - ◎茅ヶ崎市浜之郷本社B遺跡における出土事例(2025年11月27日付『朝日新聞』)もあり、今後資料が増加する可能性もある

Ⅳ. 南関東（神奈川県・東京都）における埴輪の生産―古墳時代中期～後期前半

- ① 東京都大田区田園調布埴輪工房址（森本 1930，東影 2021・2023）
 - ◎中期前葉に位置付けられる埴輪製作遺跡
 - 約 1.5km 離れた東京都世田谷区天慶塚古墳（寺田 2019）及び約 1.0km 離れた東京都大田区西岡 32 号墳（寺田 2017）への供給が想定されている
 - ※世田谷区から狛江市にかけて展開する中期～後期の埴輪は、毛野の影響を色濃く残している
- ② 川崎市宮前区白井坂埴輪窯跡（坂詰 1965，浜田・品川・伝田 2009）
 - ◎中期末～後期初頭に位置付けられる埴輪製作遺跡
 - 刷毛目共通類型（城倉 2009）に基づき、第Ⅰ群及び第Ⅱ・Ⅲ群に分類
 - ・第Ⅰ群＝川崎市高津区西福寺古墳（直線距離で約 3.8km）へ供給
 - ・第Ⅱ・Ⅲ群の供給先は現状では不明
- ③ 南関東では埴輪製作関連遺跡の発見・調査例に乏しく、遺構の状況も詳らかではないが、規模からみて継続的な埴輪生産は想起し得ない（伝田 2009・2011・2015，東影 2023）
- ④ 川崎市高津区末長久保台 1 号墳出土埴輪の分析事例（伝田 2018）
 - ◎後期初頭～前葉に位置付けられる円埴
 - ・2 群 4 類型に分類（2 人 1 組の 2 グループ＝合計 4 人）の工人の関与によって製作
 - ・うち 1 グループの 2 人には協業が認められる
 - ・胎土の蛍光 X 線分析の結果（三辻 1980）からは、異なる 2 つの地域（群馬県藤岡市周辺～埼玉県北部の利根川中流域周辺地域及び埼玉県比企地域）で製作された可能性も考えられる
- ⑤ 南武蔵における中期末～後期初頭の埴輪は、北武蔵（埼玉県比企地域）の埴輪（ブレ桜山）との共通性が高い（城倉 2011，伝田・江原・城倉 2010・2011，伝田 2015）
 - ※厚木市登山 1 号墳・東京都狛江市亀塚古墳など
- ⑥ 同時期の埴輪の生産と供給のあり方（工人集団の移動を伴う現地生産かもしくは製品の搬入か、或いは原材料を搬入して現地生産の可能性も）は、埴輪の伝統的な分析方法（製作技術や形態分類）に加えて、刷毛目共通類型に基づいた同工品分析や胎土分析など、様々な角度からの検討が必要

V. 南関東（神奈川県・東京都）における埴輪の供給—古墳時代後期後半

- ① 埼玉県鴻巣市生出塚埴輪窯跡群産埴輪
→赤羽台4号墳（東京都北区）
芝丸山8号墳（東京都港区）
大井林町1号墳（東京都品川区）
多摩川台1号墳（東京都大田区）
稲荷塚古墳・久本山古墳・日向古墳（川崎市高津区）
北門1号墳（横浜市緑区）など
※生出塚埴輪窯跡群は埼玉古墳群（埼玉県行田市）に主体的に埴輪を供給していた製作遺跡
- ② 角閃石安山岩混入埴輪
→観音塚古墳・三島塚古墳（東京都大田区）
諏訪天神塚古墳（川崎市高津区）
※利根川中流域で製作か？
- ③ 群馬系工人（もしくは群馬県産）埴輪（稲村 2017）
→瀬戸ヶ谷古墳（横浜市保土ヶ谷区）・駒岡瓢箪山古墳・駒岡堂の前古墳（横浜市鶴見区）・蓼原古墳（横須賀市）など
- ④ 下総型埴輪
→桃之園古墳（川崎市高津区）・蟹ヶ谷3号墳（川崎市宮前区）

VI. 南関東（神奈川県・東京都）における埴輪の多様性とその背景—生産体制の画期と変革—

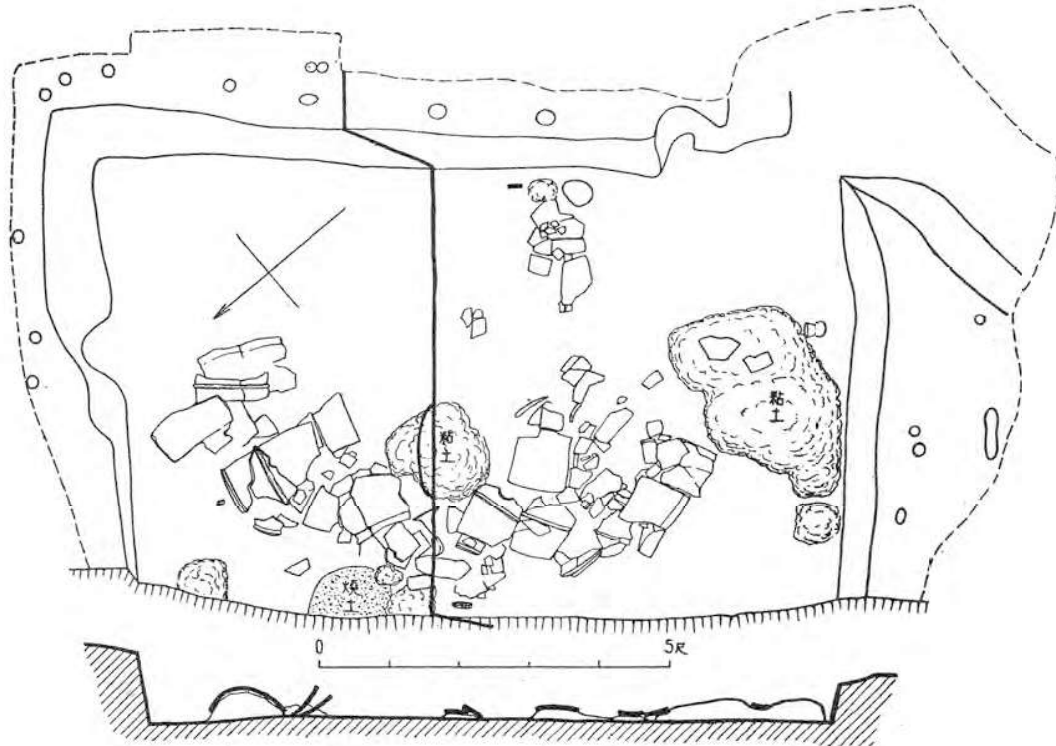
- ① 古墳時代後期の関東地方における埴輪生産
◎北関東を中心とする茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉の各県では爆発的に埴輪が盛行
◎各地域の有力古墳には大型の人物群像を伴う形象埴輪と多条突帯の円筒埴輪が導入
- ② 大規模窯における固定化した埴輪生産と一元的な管理への移行
◎概ね6世紀第Ⅱ四半期と考えられる
- ③ 6世紀前半は人が動く時代・6世紀後半はモノが動く時代（城倉 2009）
- ④ 南関東では独自の埴輪生産体制を維持し得ず、他地域からの搬入によって賄われるようになる
- ⑤ 地域によっても異なる生産体制
◎埴輪工人集団の編成と管理・統率

【参考文献】

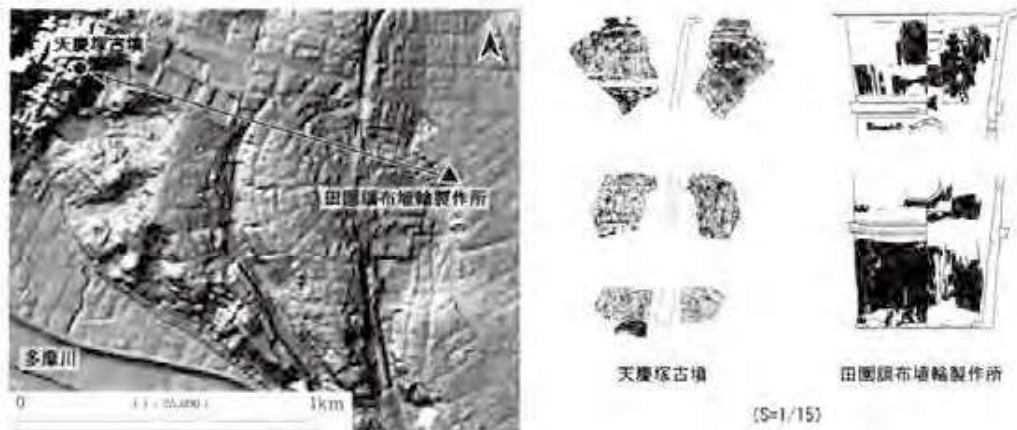
- 稲村 繁 1999『人物埴輪の研究』同成社
稲村 繁 2017「神奈川県の埴輪（Ⅱ）—外来系埴輪の分布と交通路（前）—」『横須賀市博物館研究報告（人文科学）』第62号、横須賀市自然・人文博物館
小野本 敦 2007「毛野と武蔵の円筒埴輪」『埴輪研究会』第11号、埴輪研究会

- 小野本 敦 2008「東京都大田区観音塚古墳の埴輪」『埴輪研究会』第 12 号，埴輪研究会
- 坂詰秀一 1965「神奈川県白井坂埴輪窯跡」『武蔵野』第 44 巻第 2・3 号，武蔵野会
- 城倉正祥 2009『埴輪生産と地域社会』学生社
- 城倉正祥 2011『北武蔵の埴輪生産と埼玉古墳群』学生社
- 鈴木重信 1989「川崎市高津区末永久保台出土の埴輪」『川崎市文化財調査集録』第 25 集，川崎市教育委員会
- 寺田良喜 2016「南武蔵における埴輪の生産と流通—蛍光 X 線分析を中心として」『埴輪研究会誌』第 20 号，埴輪研究会
- 寺田良喜 2017「南武蔵における埴輪の生産と流通（補足）」『埴輪研究会誌』第 21 号，埴輪研究会
- 寺田良喜 2019「南武蔵における埴輪の生産と流通（補足 3）」『埴輪研究会誌』第 23 号，埴輪研究会
- 伝田郁夫 2011「まとめ」『諏訪天神塚古墳—多摩川低地の遺跡群研究—』（『川崎市市民ミュージアム考古学叢書』7），川崎市市民ミュージアム
- 伝田郁夫 2015「古墳時代後期における埴輪生産の変革とその背景—南武蔵を中心に—」『月刊考古学ジャーナル』No.667，ニューサイエンス社
- 伝田郁夫 2018「南武蔵における埴輪生産の一樣相—神奈川県川崎市高津区末長久保台一号墳の分析事例から—」『史観』第 179 冊，早稲田大学史学会
- 伝田郁夫・江原昌俊・城倉正祥 2010「比企の埴輪」『埴輪研究会誌』第 14 号，埴輪研究会
- 伝田郁夫・江原昌俊・城倉正祥 2011「続 比企の埴輪」『埴輪研究会誌』第 15 号，埴輪研究会
- 浜田晋介 1992「川崎の埴輪」『川崎市市民ミュージアム紀要』第 4 集，川崎市市民ミュージアム
- 浜田晋介 1997「川崎の埴輪Ⅱ」『川崎市市民ミュージアム紀要』第 9 集，川崎市市民ミュージアム
- 浜田晋介・品川欣也・伝田郁夫 2009『白井坂埴輪窯跡』（『川崎市市民ミュージアム考古学叢書』6），川崎市市民ミュージアム
- 東影 悠 2021「田園調布埴輪製作所址出土の埴輪」『森本六爾関係資料集』Ⅳ，公益財団法人由良大和古代文化研究協会
- 東影 悠 2023「関東・東北の埴輪生産遺跡と供給圏」『埴輪生産からみた地域社会の展開』六一書房
- 三辻利一「綱島古墳，及び，その周辺の高塚出土須恵器，埴輪の蛍光 X 線分析」『綱島古墳』横浜市埋蔵文化財調査研究委員会・横浜市教育委員会事務局社会教育部文化財課
- 森本六爾 1930「埴輪の製作所址及窯址」『考古学』第 1 巻第 4 号，東京考古学会

※個々の論文を著作としてまとめられているものについては集約させて戴きました。また，発掘調査報告書の多くについても割愛させて戴きました。ご寛恕を請う次第です。



田園調布埴輪工房跡の遺構と遺物出土状況（森本 1930）

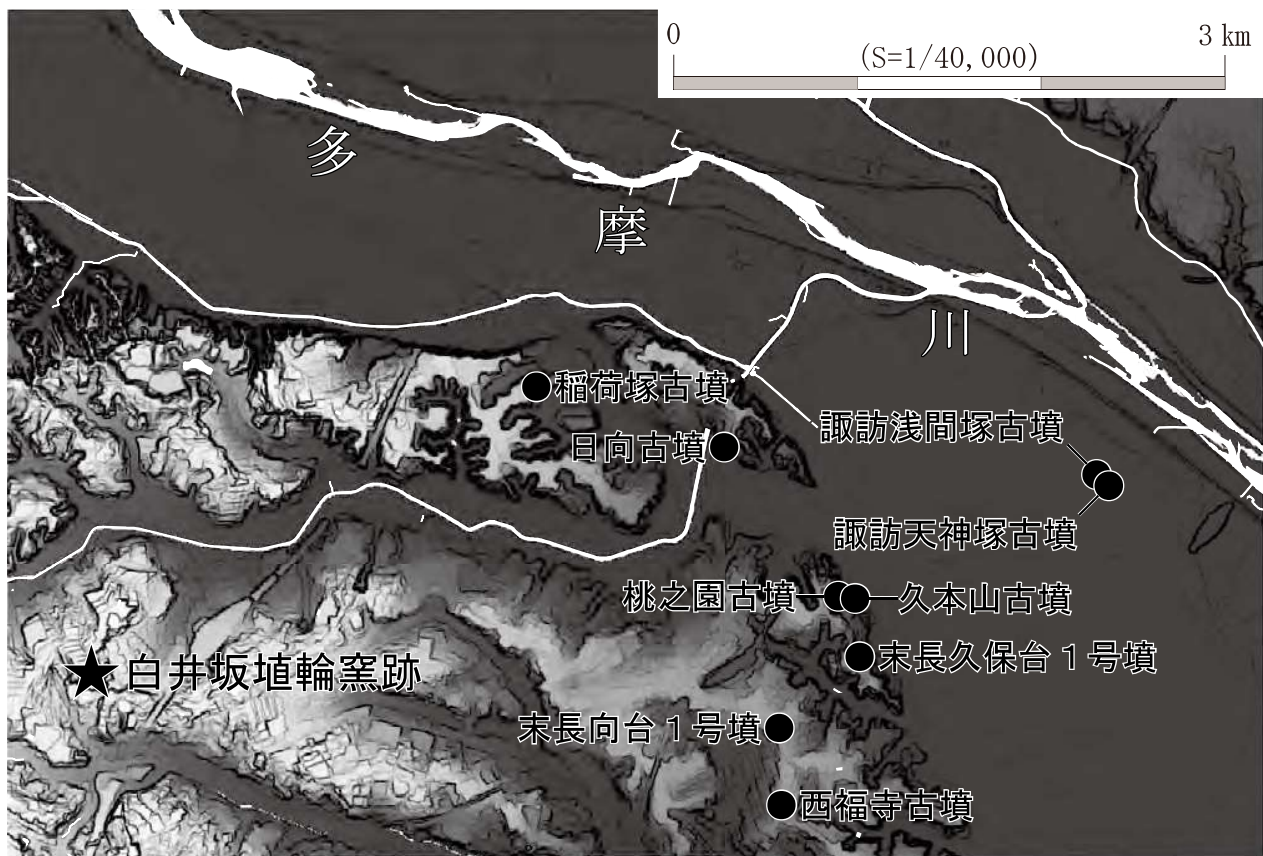


田園調布埴輪製作所からの埴輪供給（東影 2023）

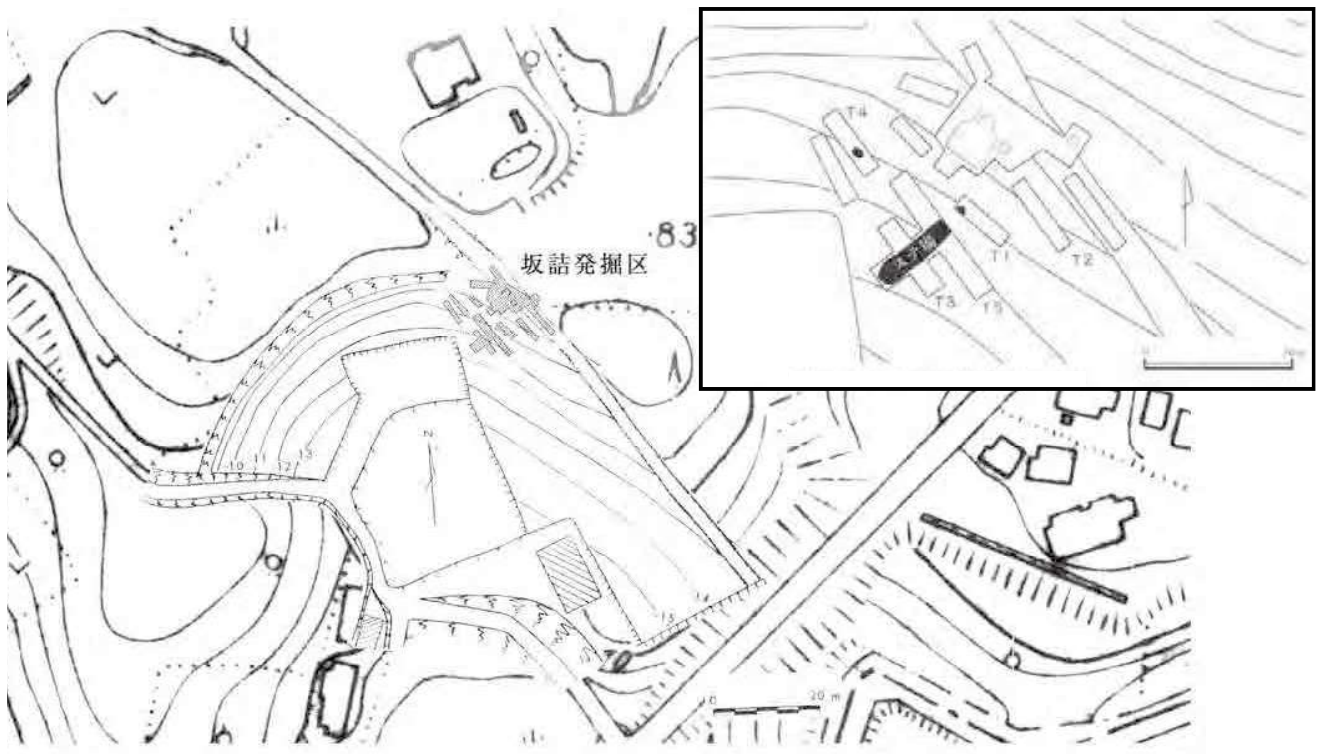


野毛大塚古墳と周辺古墳の埴輪にみられる階層性（小野本 2007）

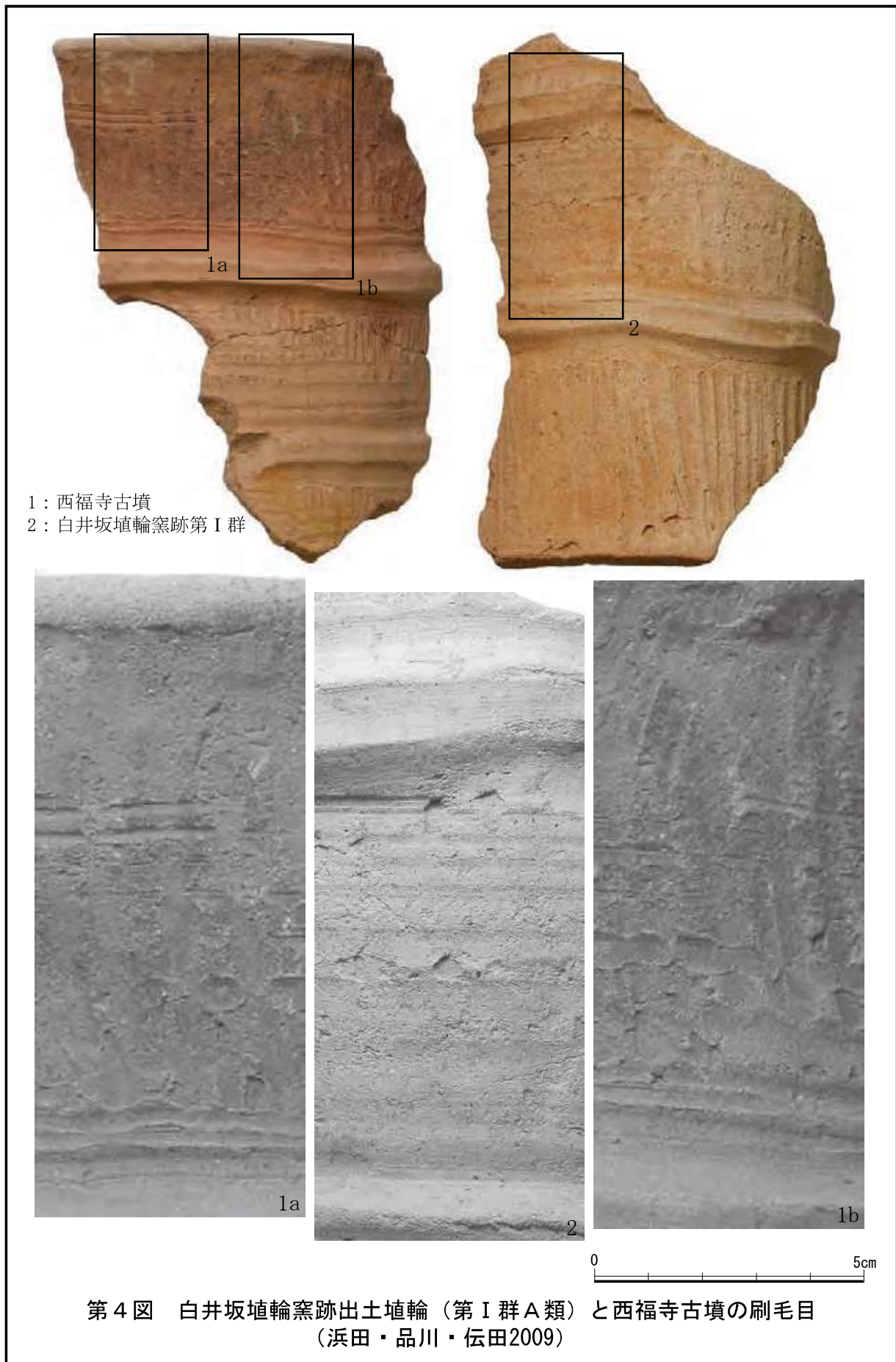
令和7年度かながわの遺跡展「あつまれ!!かながわのはにわ」関連イベント

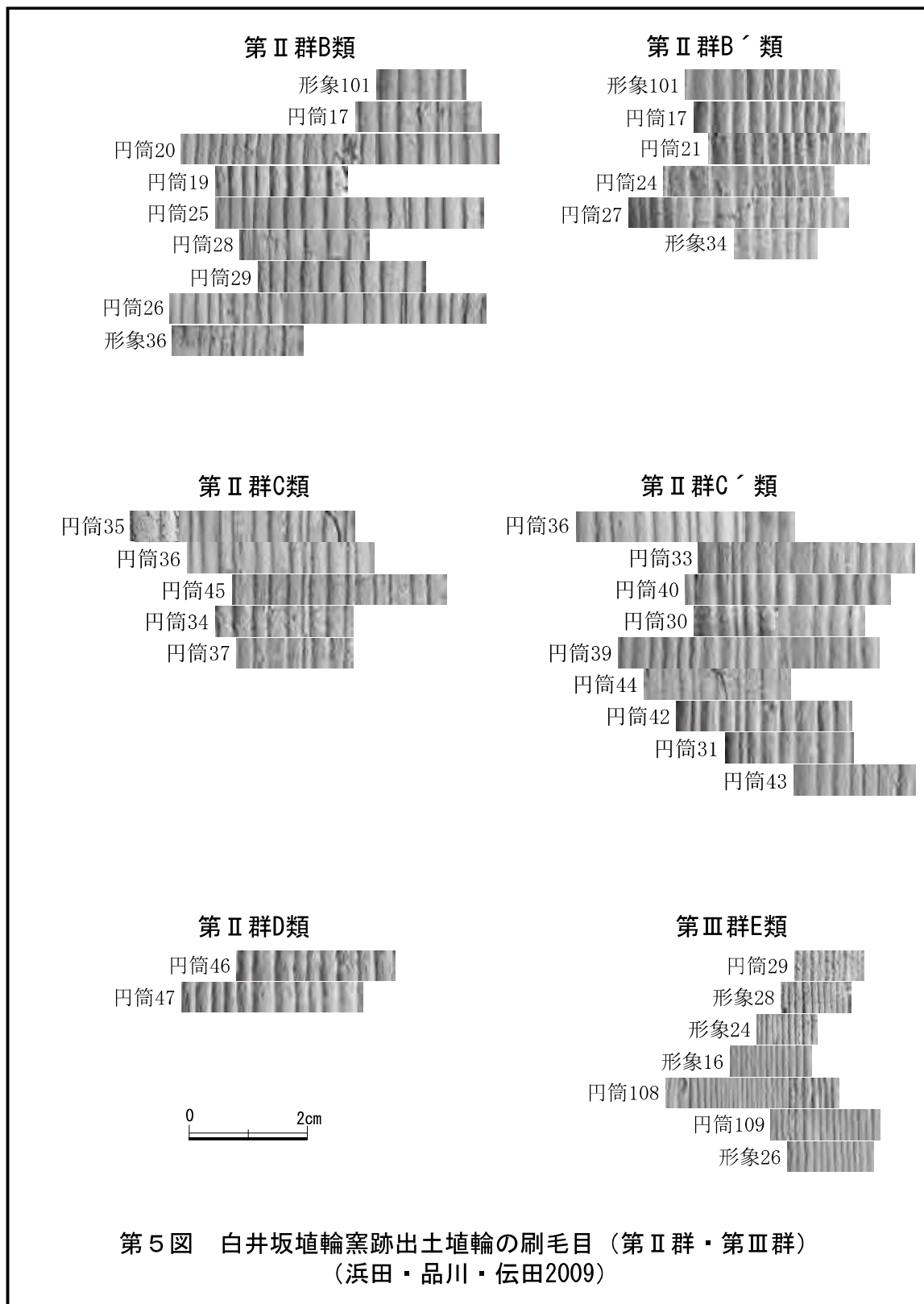


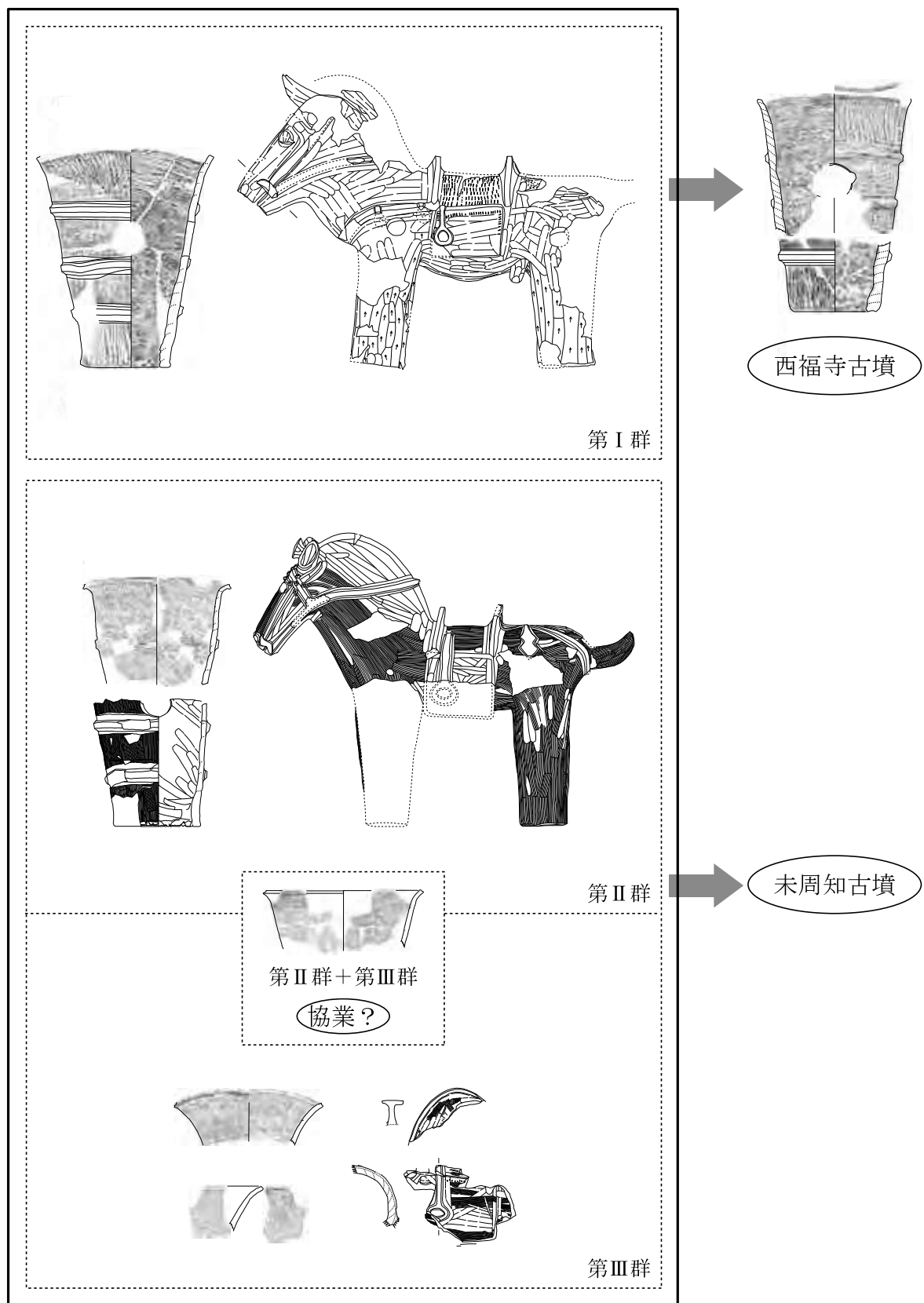
第2図 川崎市内の主な埴輪出土古墳と白井坂埴輪窯跡（伝田 2018 を一部改変）



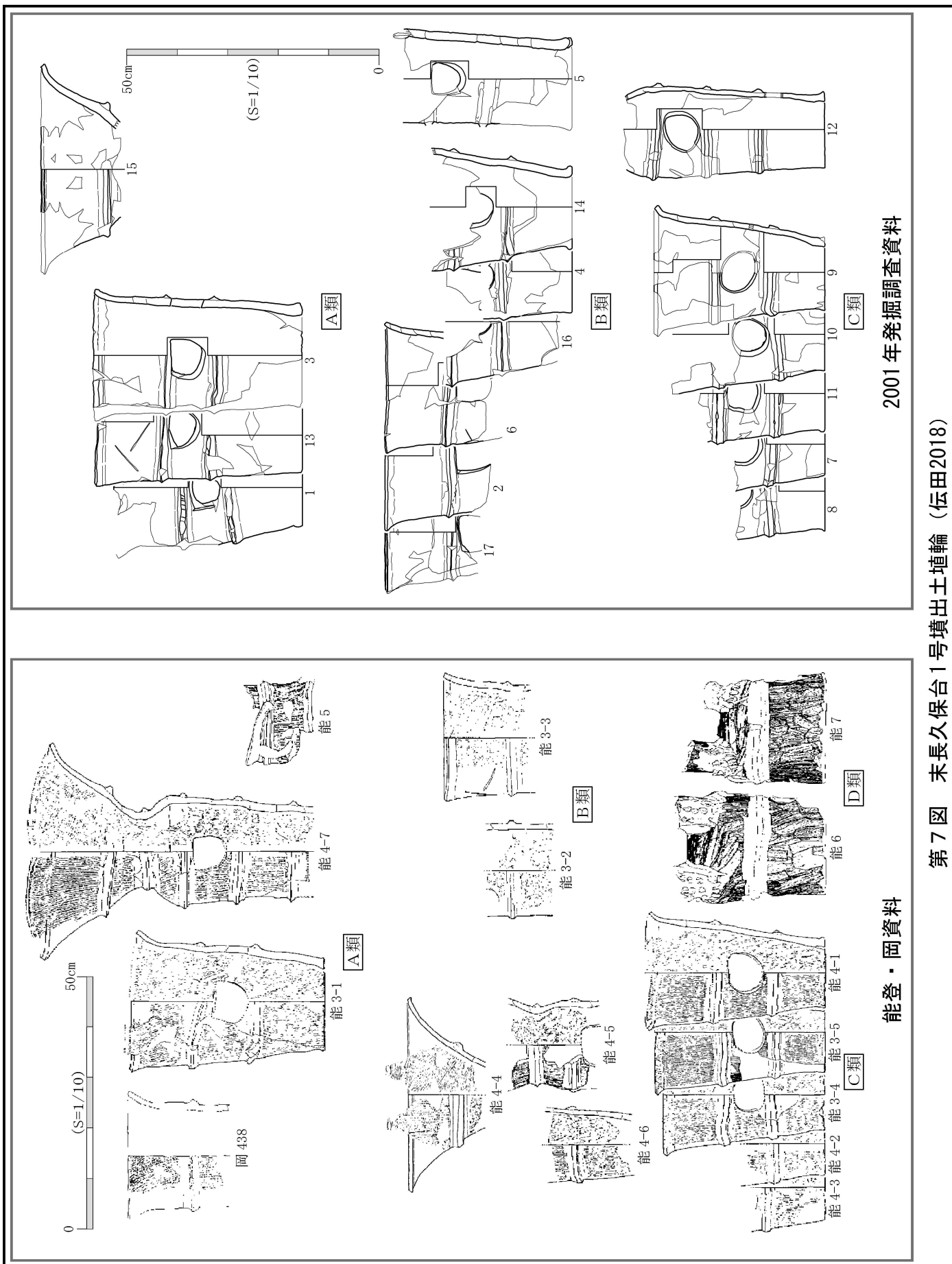
第3図 白井坂埴輪窯跡の位置（浜田・品川・伝田 2009）



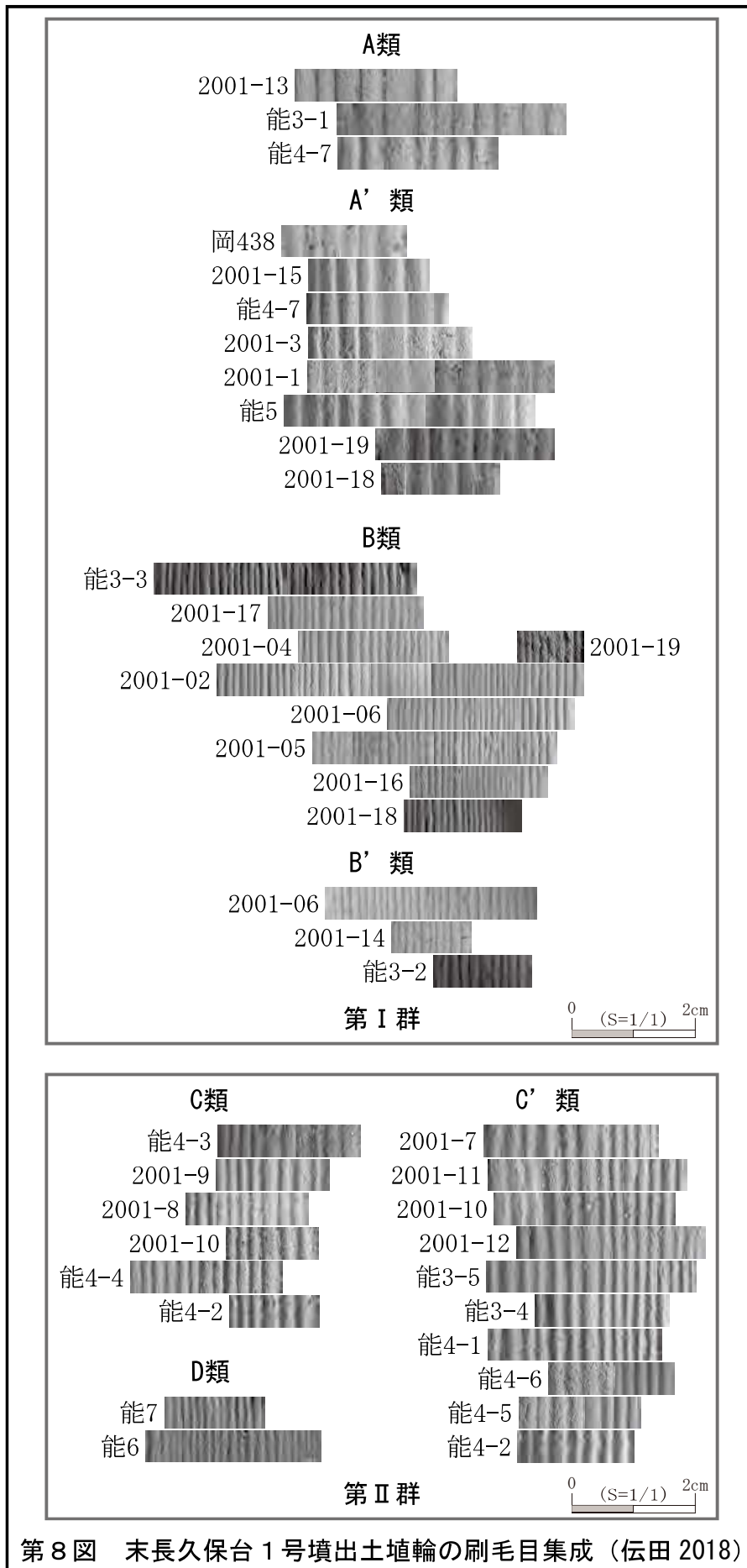




第6図 白井坂埴輪窯跡と周辺古墳の需給想定図（浜田・品川・伝田2009）



第7図 末長久保台1号墳出土埴輪 (伝田2018)



第8図 末長久保台1号墳出土埴輪の刷毛目集成（伝田 2018）

第1表 末長久保台1号墳出土埴輪の属性分析表 (伝田 2018)

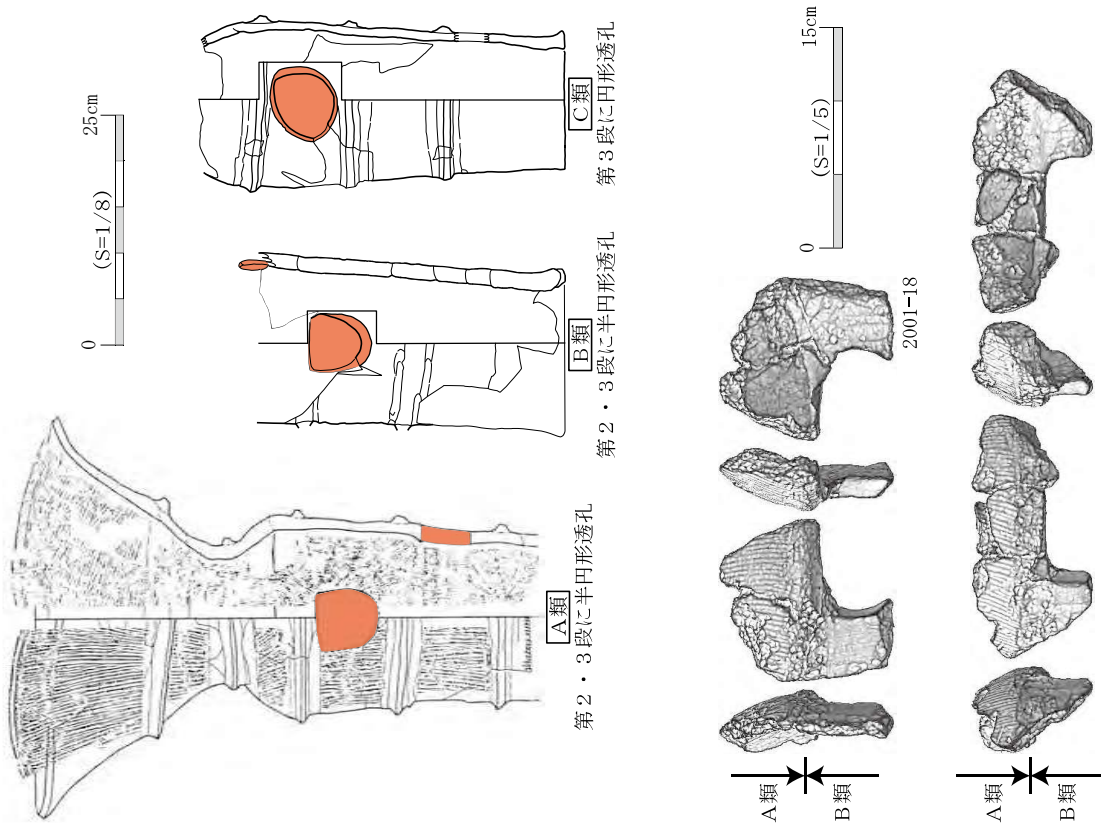
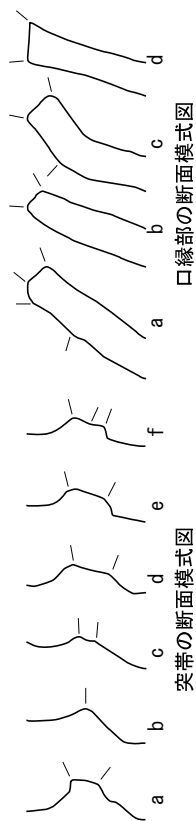
資料名	押図	器種	透孔	刷毛目	底部	突起	口縁	内面調整	縁刻	類	群
能登	第3図1	普通円筒	半円	A	?	a	a	-	b		
能登	第4図7	朝顔形	半円	A, A'	-	a	-	-	-		
能登	第5図	形象・人物	-	A'	-	-	-	-	-		
能登	第23図438	普通円筒	-	A'	-	b	a	b	-		
2001年発掘調査	No. 1	普通円筒	半円	A'	?	a	a	b	×	A	
2001年発掘調査	No. 3	普通円筒	半円	A'	?	b	a	b	×		
2001年発掘調査	No. 13	普通円筒	半円	A	R	b	b	c	×		
2001年発掘調査	No. 15	朝顔形	-	A'	-	-	-	-	-		
能登	第3図2	円筒	?	B'	-	-	-	-	-		
能登	第3図3	普通円筒	?	B	-	b	b	b	×		I
2001年発掘調査	No. 2	普通円筒	半円	B	-	b	a	b	×		
2001年発掘調査	No. 4	(普通円筒)	?	B	I	b, c	-	d	-	B	
2001年発掘調査	No. 5	朝顔形	半円	B'	?	?	-	-	-		
2001年発掘調査	No. 6	普通円筒	半円	B, B'	-	b	b	c	×		
2001年発掘調査	No. 14	(普通円筒)	?	B'	?	b	-	b	不明		
2001年発掘調査	No. 16	(普通円筒)	?	B	-	b	-	-	-		
2001年発掘調査	No. 17	普通円筒	半円	B	-	b	b	b	-		
2001年発掘調査	No. 18	朝顔形	半円	A', B	-	?	-	-	-	A+B	
2001年発掘調査	No. 19	朝顔形	半円	A', B	-	?	-	-	-		
能登	第3図4	普通円筒	円	C'	R?	d	c	a	-		
能登	第3図5	普通円筒	円	C'	?	d	c	b	-		
能登	第4図1	普通円筒	円	C'	R	d	c	b	-		
能登	第4図2	円筒	円?	C, C'	R?	d	-	b	-		
能登	第4図3	円筒	円?	C'	?	d	-	b	-		
能登	第4図4	朝顔形	-	C	-	-	-	-	-		
能登	第4図5	朝顔形	円	C'	-	-	-	-	-		
能登	第4図6	円筒	円	C'	-	f	-	b	-		
2001年発掘調査	No. 7	普通円筒	円	C'	?	e	-	c	-		
2001年発掘調査	No. 8	(普通円筒)	?	C	R?	d	-	b	-		
2001年発掘調査	No. 9	普通円筒	円	C	R	d	c	a	-		
2001年発掘調査	No. 10	普通円筒	円	C, C'	R?	d	d	b	-		
2001年発掘調査	No. 11	普通円筒	円	C'	R?	d	-	a	-		
2001年発掘調査	No. 12	朝顔形	円	C'	R	f	-	b	-		
能登	第6図	形象・人物	円	D	R	f	-	-	-	D	
能登	第7図	形象・人物	円	D	R?	f	-	-	-		

※内面調整 a = 底部から上面に向けて縦刷毛調整

b = 底部から上面に向けてナデ調整後、口縁部付近まで左上がり斜め刷毛調整

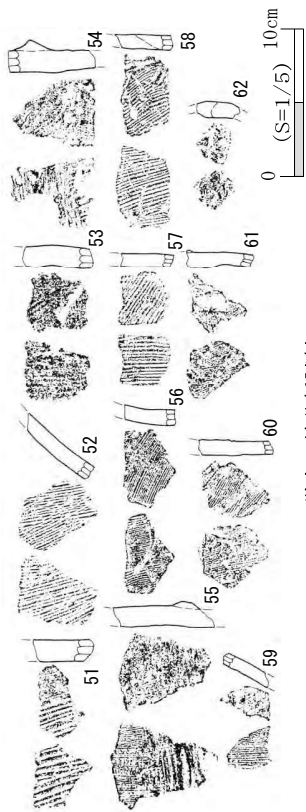
c = 底部から上面に向けてナデ調整後、口縁部付近まで右上がり斜め刷毛調整

d = 底部から残尊範囲でナデ調整のみ

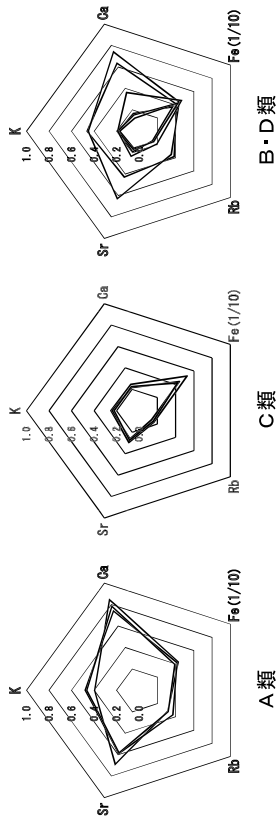


第9図 末長久保台1号墳出土の朝顔形埴輪 (伝田 2018)

類型毎の形態と透孔の穿孔位置 (上) 及び複数の刷毛目が施された破片 (下)



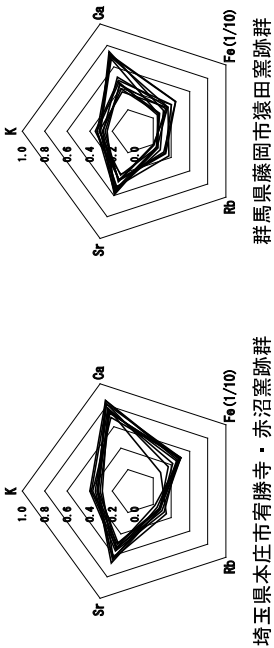
蛍光X線分析試料



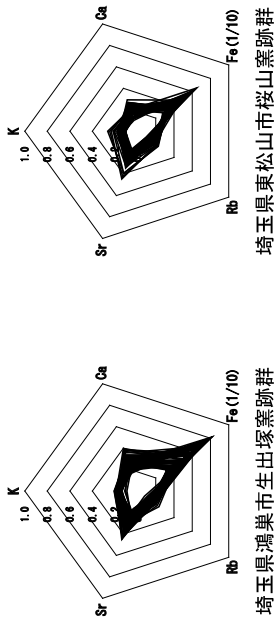
試料No.	K	Ca	Fe(1/10)	Rb	Sr	刷毛目	類
51	0.396	0.847	0.429	0.315	0.689	2~3/cm	A
53	0.478	0.741	0.417	0.370	0.590	不明	A
54	0.464	0.784	0.392	0.320	0.582	3/cm	A
52	0.250	0.246	0.527	0.166	0.296	5/cm	C
57	0.238	0.217	0.442	0.135	0.263	5/cm	C
58	0.222	0.227	0.422	0.156	0.274	5/cm	C
55	0.461	0.634	0.410	0.384	0.428	9/cm	B or D
56	0.451	0.741	0.440	0.352	0.630	7~9/cm	B or D
59	0.181	0.166	0.368	0.145	0.192	7~8/cm	B or D
60	0.171	0.124	0.417	0.160	0.158	7~8/cm	B or D
61	0.191	0.152	0.427	0.157	0.168	8/cm	B or D
62	0.190	0.361	0.465	0.195	0.232	8/cm	B or D

末長久保台 1 号墳出土埴輪の蛍光X線分析リーダーチャート

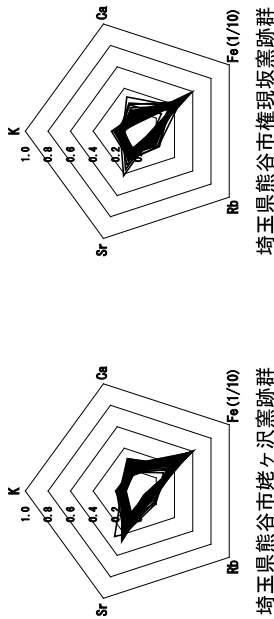
(三辻 1989 をもとに作成)



群馬県本庄市有勝寺・赤沼窯跡群



群馬県東松山市桜山窯跡群



群馬県熊谷市焼ヶ沢窯跡群

群馬県・埼玉県における埴輪窯跡の蛍光X線分析リーダーチャート

(三辻 1989 をもとに作成)

第 10 図 末長久保台 1 号墳出土埴輪の蛍光X線胎土分析結果と類似した胎土組成の埴輪窯跡 (伝田 2018)

令和7年度かながわの遺跡展「あつまれ!!かながわのはにわ」関連イベント

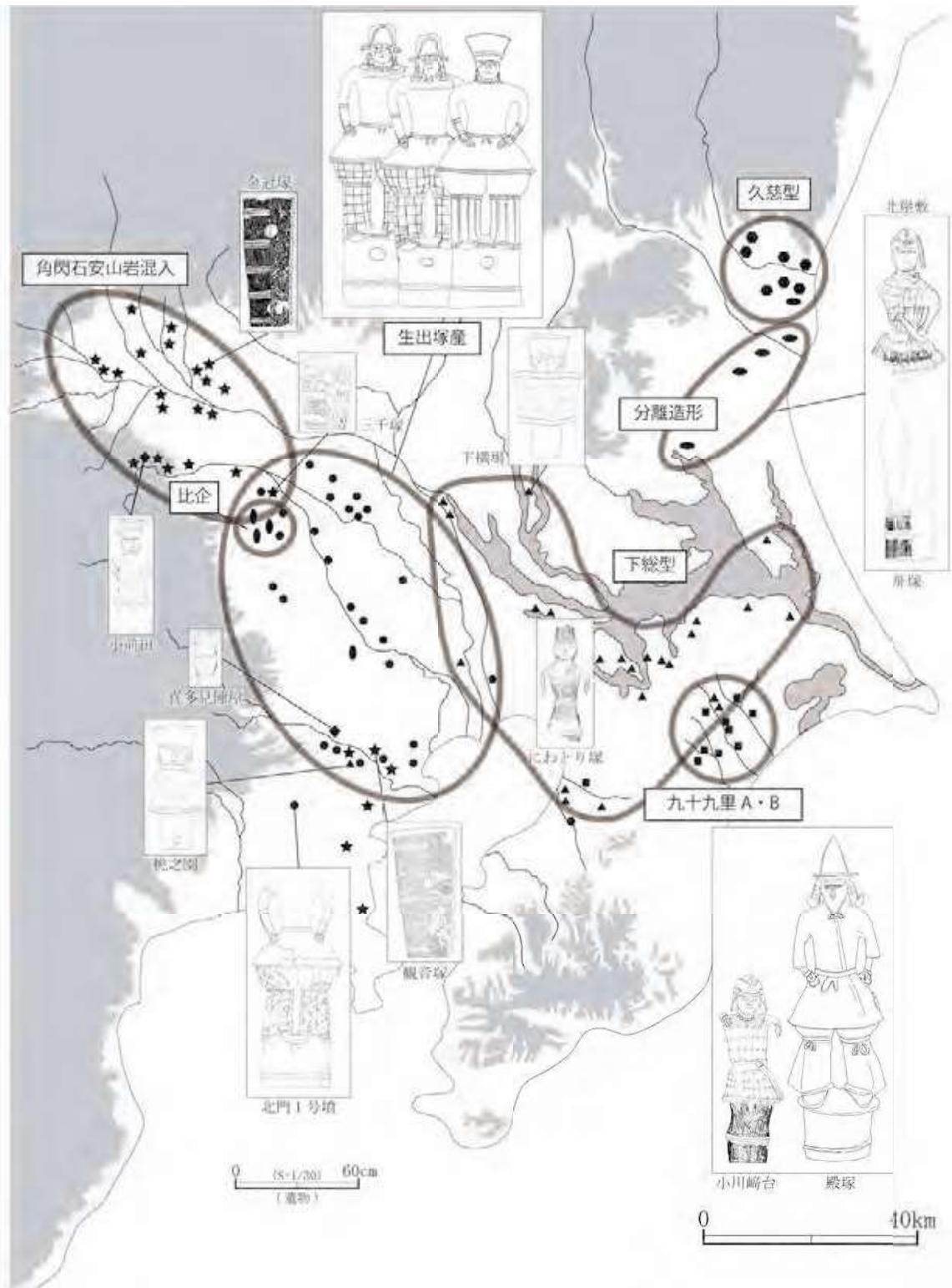


第11図 後期前半における「比企」系統の埴輪の分布（伝田 2016）



第12図 「比企」系統の埴輪と南武蔵における類例（伝田 2015）

令和7年度かながわの遺跡展「あつまれ!!かながわのはにわ」関連イベント



第13図 古墳時代後期後半における関東地方の埴輪の地域性（伝田 2015）